

令和2年度第1回新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時：令和2年10月27日（火） 午後3時～5時

場 所：新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員：8名

阿部紀夫、大月優子、小島勝治、小林久哉、里村洋子、
島 吾郎、武仲浩美、本井晴信 (五十音順、敬称略)

欠席委員：2名

石川明子、谷 哲夫 (五十音順、敬称略)

傍 聴 者：なし

事 務 局：(北区郷土博物館) 木村隆行 館長、神田直子 主査(学芸員(美術))、
曾部珠世 会計年度任用職員(学芸員(歴史))
齋藤加奈 会計年度任用職員(学芸員)
(北区地域総務課) 中川 陽 課長補佐

資 料：事前配布(別添)

会議のあらまし

- ・令和2年度第1回目の協議会を開催した。
- ・島会長の進行により、別添の会議次第に沿って行われた。
- ・議事の項目ごとに、別添の配布資料に基づいて、博物館が説明を行い、それに対して委員から質疑や意見などが出された。

1 開会

(司会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 木村館長

ただいまから令和2年度第1回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は委員8名が出席され、会議は成立しています。

傍聴者はありません。

2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・ 島会長

3月からのコロナ禍でイベントができない状況が続き、皆様も公私に渡って、大変な経験をされたと思います。身体ともに疲れた時や災害、流行り病のときには、神仏や自然にすがる思いが生まれ、アマビエが注目されました。

このような時、「文化」に触れることで癒されるものです。博物館の事業では、工夫を

凝らし、神楽や絵画展など地域で優れている特徴に焦点を絞っていただき、元気ももらい、誇りを感じました。

では、今後の予定などを説明していただきます。皆様からは、コロナ禍でのあり方など、知恵をいただきたいと思います。

3 あいさつ 中川北区地域総務課補佐

参宮副区長が体調不良で欠席です。これから寒くなるので皆様も健康に留意してほしいと思います。

春先よりコロナ禍で、ゴールデンウィークから公共施設が休館などを強いられました。が、新たな生活様式が始まり、夏過ぎから少しずつ利用が再開されています。

感染防止を図りながら、どのように公共施設を利用してもらえるかが課題になってきています。本日は、どうぞよろしくお願ひ致します。

6 議事

(司会) 島会長から議事の進行をお願い致します。

(島会長) では早速、議事に入ります。まずは会議次第の議事(1)新潟市北区郷土博物館の前期の事業報告について、博物館から説明をお願いします。

(1) 令和2年度前期の新潟市北区郷土博物館事業報告について

(神田) 「令和2年度前期の事業報告」を資料(pp. 2-12)に基づいて説明。

(島会長) ただいま令和2年前期の事業の報告をしていただきました。まず1「展示事業」(pp. 2-5)について、ご意見、ご質問を頂戴したいと思います。

【質疑応答】

(小林委員) 今年度当初から学校現場は休校を強いられ、正式には9月から再開となりました。「松蔭賞書道展」には、葛塚東小学校からいつも出品してありますが、今年度は、書写の時間が7月頃から始まり、練習の時間がなかなか取れませんでした。3年生は、初めて書写をやるので出品までには至りませんでした。4、5年生を中心に何とか出品することができました。来年度も是非出品させたいと考えています。
夏休みが短縮されたことなどで「こども科学展」が中止となりましたが、子どもたちは作品を作ってきたので、校内での科学展を開催しまし

た。「こども科学展」は発表の場なので、来年度は是非出品させてもらいたいと思っています。

また年度後期では、潟の学習、総合学習で博物館を訪問させていただきたいですし、来年1月から始まる「昭和のくらし展5」でもお世話になります。

(島会長) 葛塚東小学校には、ビュー福島潟の菜の花の種蒔きなどにも協力していただいています。

(本井委員) 「松蔭賞書道展」は、23回にわたって同じスタンスで実施していて、子どもたちにとっては、筆を持つ唯一の機会となっているようです。書写について心配なのは、鉛筆さえもちゃんと持てていない児童が多いなかで、ちゃんと筆を持っているのかということです。作品を作ったからいいというものではないと思います。

(小林委員) 書写の授業では、3年生から筆の持ち方を指導しています。以前は、毎年最初に、小黒五稜先生から指導していただいていたと思います。その後、書写の時間が少なくなっていますが、持ち方の指導は行っています。

(島会長) 筆の持ち方は、家庭教育の問題でもあると思います。

(小島委員) 作品を集めてイベントを行うだけでなく、そのイベントを通して子どもの資質をどう高めるかが問題です。鉛筆を握って持つ子どもが増えていきます。鉛筆の持ち方は指導しているのでしょうか。家庭や学校での指導を見直していく必要があるのではないのでしょうか。各学校で指導してもらいたいです。イベント開催だけでなく、そこに参加するまでの過程が大事だと思います。

(大月委員) 卒園児の母親から「松蔭賞書道展」に子どもの作品が展示されたので見てください、と言われることがあります。また、「こども科学展」が今年中止となったこともお母さん方はよく知っているようでした。両方とも地域に浸透している行事だと思います。「神楽展」もアマビエと重なり、いろいろなものを見られて有難かったです。

(本井委員) 「神楽展」はこの地域ならではの催しで、他の地域との交流、繋がりもう

かがわせる良い企画でした。毎年でなくともよいので引き続き実施してほしいと思います。

「昭和の暮らし展」(「住まい」の道具イロイロ)のポスターは、興味を沸かせる近来まれにみる良い出来でした。企画展はポスターの力に頼るところが大きいのですが、世間にどういうイメージなのかを伝えるということが、いろいろな観点からうまくいっていましたが、捨てられていくものでも見方を変えれば面白いものがあり、新たな見方が提案されることが沢山ありました。

(阿部委員) 企画展「福島潟が育んだ水絵の文化」について。当初は予定していなかった展示とのことですが、宣伝の割に作品が少なくてがっかりした人もいたようです。地元では関心を持つ人が多いので、所蔵作品、地元作家に今後も力を注いで欲しいです。

(神田) 北区の豊栄地域は水彩画が盛んで、作家も多い。大変珍しい現象です。それを知った時の驚きを企画展にしました。ただ、所蔵品にはこのテーマに沿った作品が少ないので、「常設展併設」として立案しました。当館の所蔵作品だけで美術の企画展を構成するには難しいというのが実情です。

(里村委員) 常設展示において福島潟関連の「水の暮らし」の展示があって、「水絵の文化」という切り口が見られることは新鮮でした。小規模でしたが意義があったと思います。

(武仲委員) 「神楽展」はこだわりをもった作りでしたが、地域にテーマを絞っていましたが、全国に発信したいような内容でした。広告、宣伝で何を伝えるのか、何のツールを使うのかは難しい。コロナの前後で様子が変わり、発信の仕方も変わっています。NHK放送の句会では、コロナで動けないのでリモートで行っていますが、このリモートはよかった。博物館も工夫して、よい方法を模索してほしいです。

(本井委員) コロナ禍での方式を選ぶしかないし、そのやり方を私たちは受け入れてきています。二度と同じ経験はできないので、この状態を記録してほしい。「コロナ対策の取り組み」をリアルタイムで残しておいてほしい。例えば、スーパーのチラシでコロナ対策がどのように記載されているのか、マスクの着用状態、フェースマスク、消毒液の使い方など。これからも

先は見えないが、記録をとっておけば次の機会に生かせると思います。

(島会長) 「神楽展」では、お頭を借りて展示することに苦労はなかったですか。

(木村館長) 実物の借用は難しいと思っていましたが、幸いなことに快く承諾していただきました。「区づくり事業」を通して、保存会の方々との連絡が密になったことによるものかもしれません。

(島会長) 次に、2「教育普及事業」～9「特色ある区づくり事業」(pp. 5-12) についてはいかがでしょうか。

(里村委員) 9「特色ある区づくり事業」の木崎村小作争議 100 周年事業の講演会の講師は決まっていますか。

(木村館長) まだ決まっていません。

(阿部委員) 2「教育普及事業」の「おとなの北区探検ツアー」の参加者の反応はどうでしたか？

(曾部) 歴史だけでなく“ブラタモリ”的に地理的な面にも着目して、3コースで各コース2回、計6回実施しました。1回毎にアンケートをとったところ、ある回では、95%がとても良かった、5%がまあまあ良かったという結果でした。ボリュームのある資料を作成して配りましたが、「今度は妻を連れて同じところを回りたい」などと言っていただきました。

(阿部委員) 地元に着目した催しに取り組んでもらいたいです。木崎村小作争議の説明板の修正はどうなっていますか。

(曾部) 再来年度に向けて予定しています。

(本井委員) コロナ禍のおかげで、企画展、講座など外向きの行動が出来なくなっています。逆に、これを生かして「収蔵庫」の中を再点検して、持ち駒を調べて、市民に公表したり、市民の財産がどれくらいあるのか知らせたりするベースにしてほしい。何を収集してきたのか、何を目指しているのか、今後どうしたいのか。博物館だけでなく、北区の住民の共有の問題としてとらえて行くことが

大事だと思います。そしてみんなで盛り立てていく必要があります。

(島会長) 別添資料の6「資料の保管・整理」、8「文化財の整理・活用」に記載されていることと関連しますが、博物館として、どのように考えていますか。

(木村館長) 長年蓄積したものが沢山あります。これらは、館の職員だけのものではありません。多くの人に見てもらいたいし、調査・研究に生かしてほしいですが、目録の作成など一定の整理は必要かと思います。

(島会長) 『博物館 50 周年記念誌』に所蔵資料のデータが掲載されていますし、毎年発行される『博物館だより』などを通して、市民はある程度は知ることができますが、これからも北区に「こんなお宝がある」ということを発信することに尽力してもらいたいと思います。
入館者数などはこの施設も厳しいですが、ここでは頑張っていると思います。
「昭和の暮らし展」の天秤棒体験では重いことを実感することができました。体験すること、いわゆるハンズオンの工夫は素晴らしいと思います。

(3) 令和2年度後期の新潟市北区郷土博物館事業計画について

(木村館長) 議事(2)「令和2年度後期の事業報告」を資料(pp. 13-15)に基づいて説明。

(島会長) 後期の事業計画を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

【質疑応答】

(小林委員) 博物館では体験コーナーがあるが制限されているところが多い。難しい面もあると思いますが、体験コーナーは実施してほしいです。

(曾部) 学校では現在、道具などを共有する場合はどのようにしていますか？

(小林委員) 手洗いなどで共有化は進んでいます。

(大月委員) 保育園では、登園前の体温測定など、厳しくしています。おもちゃなどの共有物は、消毒をきちんとして、今まで通りに貸し借りしています。

(里村委員) 「美術でみる 型とシンボル展」のポスターは良いですね。早通駅にも貼ってありますが、とても目に付きます。

(木村館長) 議事(3) その他として、博物館を取り巻く状況を3点報告。

(島会長) これで議事を終了します。皆様、ありがとうございました。

7 閉会

(司会) 島会長、ありがとうございました。
委員の皆様、長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。